

弥生時代後期竪穴住居の研究（7）

弥生時代研究プロジェクトチーム

はじめに

今回は平塚市・大磯町内における竪穴住居の集成と分析を行い、特徴の把握を行う。本稿では、上記分析対象地域を便宜的に西湘地域と呼称する。今回の分析対象となる遺跡は平塚市真田・北金目遺跡群、同市原口遺跡、同市王子ノ台遺跡、大磯町坊地遺跡の4遺跡である。大磯町坊地遺跡では住居1軒が確認されているのみで、平塚市内の遺跡が中心であり、真田・北金目遺跡群で確認されている住居が集成の大半を占める。今回の執筆・編集はプロジェクトメンバーによる集成作業・検討結果に基づき戸羽、新開が行った。

県西地域における竪穴住居跡の特徴

帰属時期別住居軒数

帰属時期：西湘地域で集成した竪穴住居跡は1699軒である。これらの帰属時期は後期：1165軒（平塚市真田・北金目遺跡群：1017軒 同市原口遺跡：61軒、同市王子ノ台遺跡：86軒、大磯町坊地遺跡：1軒）、庄内併行期：160軒（平塚市真田・北金目遺跡群：158軒、同市原口遺跡：2軒）、後期～古墳時代前期：374軒（すべて平塚市真田・北金目遺跡群）である。分析の対象とした竪穴住居跡は後期～古墳時代前期を除いた後期および庄内併行期に帰属するものとした。

住居形態など

平面形態：後期1165軒のうち最も多いのは隅丸（長）方形396軒で、次いで楕円形317軒、（長）方形72軒、円形68軒、不整形7件、その他（五角形）1軒、平面形態不明のものは304軒を数える。このうち短軸方向上に炉跡が存在する住居（短軸住居）は7軒、その可能性があるものは3軒あり、いずれも真田北金目遺跡群で確認されている。

庄内併行期160軒のうち最も多いのは隅丸（長）方形97軒で、次いで（長）方形17軒、楕円形10軒、平面形態不明のものは36軒を数える。このうち短軸方向上に炉跡が存在する住居（短軸住居）は4軒あり、後期同様にいずれも真田北金目遺跡群で確認されている。

長短率：長短率は住居の長軸の数値を短軸の数値で除し、それに100を乗じたものである。値が大きくなれば、長軸短軸の差が大きくなり長方形に、小さくなれば正方形に近づき、最低の値は100となる（弥生時代研究プロジェクトチーム1995）。後期で算出できたのは247軒で、基本統計量は最大205.6（ただし外れ値となるため図には反映していない）、最小100、平均115.5、中央値113.0という値を示した。

庄内併行期で算出できたのは44軒で、基本統計量は最大145.2（ただし外れ値となるため図には反映していない）、最小100.0、平均111.0、中央値109.3という値を示した。

方形指数：後期では257軒で算出できた。方形指数10～20未満が51軒、次いで0～10未満が43軒、20～30未満が39軒、30～40未満が30軒、40～50未満が20軒、70～80未満・80～90未満が15軒、90～100未満が14軒、50～60未満が12軒、60～70未満が11軒となる。なお、指数100を超える住居が7軒存在する。

方形指数の分布傾向としては0～50未満となる住居が全体の約71%を占めており、方形指数の示す値が低

い住居が大きな割合を占めている。

庄内併行期では44軒で算出できた。方形指数10～20未満・50～60未満が9軒、60～70未満が7軒、20～30未満・40～50未満が6軒、30～40未満が5軒、0～10未満・70～80未満にそれぞれ1軒となる。

方形指数の分布傾向としては10～70未満で全体の約95%を占めており、住居軒数はその数値の間で大きく偏ることなく存在する。

主軸方位：北東方向（N-○°-E）および北西方向（N-○°-W）を0°～90°の間で角度を計測した後、10°ごとに住居軒数の集計を行ってグラフ化した。円が角度を、角度の軸が該当する住居の軒数を示している。南方向を主軸とする住居は東西90°を越える角度に変換して南方向に主軸を取る住居の方位を集計し、グラフ化した（例：S-50°-EであればN-130°-Eに変換して集計）。

後期において北東方向を主軸とする住居は171軒ある。その内訳は、30～40°未満28軒、50～60°未満24軒、10～20°未満19軒、20～30°未満18軒、0～10°未満・40～50°未満17軒、60～70°未満12軒、70～80°未満9軒、80～90°未満7軒である。また、南東方向を主軸とする住居があり、110～120°未満19軒、130～140°未満1軒である。

北西方向を主軸とする住居は525軒ある。その内訳は、40～50°未満118軒、30～40°未満107軒、50～60°未満78軒、20～30°未満74軒、10～20°未満49軒、70～80°未満32軒、60～70°未満29軒、0～10°未満25軒、80～90°未満9軒である。また、南西方向を主軸とする住居があり、90～100°未満・100～110°未満・110～120°未満・120～130°未満でそれぞれ1軒ある。

庄内併行期に北東方向を主軸とする住居は31軒ある。その内訳は、30～40°未満8軒、20～30°未満6軒、0～10°未満4軒、40～50°未満3軒、10～20°未満・50～60°未満・70～80°未満それぞれ2軒、80～90°未満1軒である。また、南東方向を主軸とする住居跡があり、130～140°未満2軒、150～160°未満1軒である。

北西方向を主軸とする住居は67軒ある。その内訳は、40～50°未満16軒、30～40°未満14軒、50～60°未満10軒、10～20°未満9軒、60～70°未満6軒、20～30°未満4軒、70～80°未満・80～90°未満3軒、0～10°未満1軒である。また、南西方向を主軸とする住居があり、120～130°未満1軒がある。

上記のほか、真北（0°）を主軸方向とする住居があり、後期で9軒、庄内併行期で2軒存在する。

後期で北西方向を主軸とする住居が20～60°未満に集中する。庄内併行期においても同様な傾向を示す。

主柱穴：住居跡での主柱穴本数が確認できたものについて集計した。なお、軒数には柱穴配置により、本数が推定可能な遺構を含む。後期では359軒中、主柱穴4本の住居304軒で約85%、次いで主柱穴0本の住居34軒で約9.5%、5本の住居が8軒で約2%、2本の住居が6軒で約1.7%、6本の住居が4軒で約1%、3本の住居が2軒で約0.6%、1本の住居が1軒で0.3%となる。

庄内併行期では82軒中、主柱穴4本の住居が81軒で約99%の割合を占め、主柱穴7本の住居が1軒で約1%の割合となる。

後期・庄内併行期ともに主柱穴4本の住居が主体である。

地形と立地

分布する地形面：今回分析対象の遺跡が後期・庄内併行期ともに台地・丘陵に位置する。

水系：後期では1165軒中、金目川・大根川水系に1103軒、金目川水系に61軒、三沢川水系に1軒となる。

庄内併行期では160軒中、金目川・大根川水系に158軒、金目川水系に2軒となる。

今回の集計で多くの住居軒数を占める平塚市真田・北金目遺跡群が金目川・大根川水系に位置しており、

当該河川に大きく偏る結果となった。

住居付帯施設

炉跡：後期では1165軒中614軒で確認されている。その内訳は地床炉490軒、枕石炉108軒、粘土板炉10軒、枕粘土炉3軒、土器片炉3軒である。粘土板炉は10軒中5軒が平塚市王子ノ台遺跡で、枕粘土炉は3軒中2軒が同市原口遺跡で、土器片炉は3軒すべて同市真田・北金目遺跡群でそれぞれ確認されている。

また、1つの住居に複数の炉跡が存在している事例がある。真田・北金目遺跡群では1つの住居内に2基の地床炉が確認されている事例が21軒、3基の地床炉が確認されている事例が5軒、2基の枕石炉が確認されている事例と2基の粘土板炉が確認されている事例がそれぞれ1軒ずつある。異なる種別の炉が同一住居内に存在する事例もあり、平塚市真田・北金目遺跡群6区SI155・同市王子ノ台遺跡YK48号住居址では地床炉と枕石炉が、王子ノ台遺跡YK53号住居址では枕石炉と粘土板炉が1基ずつ確認されている。

庄内併行期では160軒中76軒で確認されている。その内訳は地床炉64軒、枕石炉11軒、土器片炉1軒である。また、1つの住居に複数の炉跡が存在している例がある。真田・北金目遺跡群35A～D区SI021・057・146・45区SI0067・011では住居内に2基の地床炉が確認されている。

入口穴・梯子穴：後期で入口穴は80軒で確認されており、その内訳は平塚市真田・北金目遺跡群で62軒、同市王子ノ台遺跡で13軒、同市原口遺跡で5軒である。梯子穴は3軒で確認されており、その内訳は平塚市真田北金目遺跡群で2軒、同市原口遺跡1軒である。平塚市真田・北金目遺跡群30A・D区SI084・同市原口遺跡YH25号住居址では梯子穴が2基存在する。

庄内併行期では入口穴は16軒で確認されており、その内訳は平塚市真田・北金目遺跡群で15軒、同市原口遺跡で1軒である。梯子穴は1軒で確認されており、平塚市真田・北金目遺跡群34A～D区SI057が該当し、段状を呈する梯子穴が見つかった。

貯蔵穴：後期に63軒で確認されている。その内訳は平塚市真田・北金目遺跡群で41軒、同市王子ノ台遺跡で20軒、同市原口遺跡で2軒である。そのうち周堤を有するものは4軒あり、平塚市真田・北金目遺跡群35A・C区SI069、35B・D区SI012、49A区SI008、同区SI037が該当する。

庄内併行期では19軒で確認されている。すべて平塚市真田・北金目遺跡群の事例である。そのうち周堤を有するものは3軒あり、平塚市真田・北金目遺跡群23B区SI1001、34A～D区SI151、35B・D区SI082が該当する。

周溝：後期で全周するものは115軒（9.9%）、部分的に存在するものは480軒（41.1%）、存在しないものは469軒（40.2%）、不明なものは103軒（8.8%）である。

庄内併行期で全周するものは54軒（33.8%）、部分的に存在するものは31軒（19.4%）、存在しないものは75軒（46.9%）である。

住居廃絶など

拡張：後期では48軒で確認されている。いずれも回数は1回で、すべて平塚市真田・北金目遺跡群の事例である。

庄内併行期は4軒で確認されている。後期同様に回数は1回で、すべて平塚市真田・北金目遺跡群の事例である。

焼失：後期では47軒で確認されており、このうち炭化物や炭化材、焼土などが検出されているのは40軒である。すべて平塚市真田・北金目遺跡群の事例である。

庄内併行期では12軒で確認されており、このうち炭化物や炭化材、焼土などが検出されたものは12軒である。後期と同様にすべて平塚市真田・北金目遺跡群の事例である。

埋没過程：大半が自然作用による埋没であるが、人為的に埋め戻されている住居が後期に4軒確認されており、平塚市真田・北金目遺跡群6区SI148・22区SI075a・37区SI012・52A区SI012bが該当する。庄内併行期には人為的に埋め戻された住居は確認されていない。

出土遺物

遺物：出土遺物で主体となるのは土器類、石器類であるが、ここでは特徴的な土器・石器のほか、特筆される遺物が出土した住居跡と遺物名を列挙する。

後期：平塚市真田・北金目遺跡群1区3号住居跡：菊川式土器一括出土、同35A・C区SI069：ミニチュア・打製石斧？、同34A～D区SI050：広口壺・銅釧、同区SI055：広口壺・打製石斧・石錘？、同区SI088：広口壺・小銅環、同区SI169：ミニチュア・土製勾玉、同54A区SI014：埴・ミニチュア・軽石製浮子・磨痕付礫・土製勾玉、同区SI080：ミニチュア・炭化米23349、同58A区SI058：広口壺・鉄製刀子、同区SI078：小型壺・ミニチュア4・有頭石錘（炉の枕石として転用）、同55A1区SI029：ミニチュア9・石製品（石棒？）・鉄製刀子（古代以降の可能性あり）、同55A3区SI007：ミニチュア・軽石製品、同区SI011：ミニチュア3・不明鉄製品・円盤状土製品、同区SI017：ミニチュア・加工痕のある剥片（玉作り関連か）、同55B1区SI0031：ミニチュア・軽石製品、同55B1区SI0054：甗、同55B2区SI0036：ミニチュア・軽石製品2・土製勾玉、同13区SI001：有頭石錘・編み物石、同8C区SI1079：石錘？・小銅環・軽石製品、同8C区SI1099：打製石鏃・磨製石鏃・小銅環・銅釧・不明銅製品、同8C区SI1108：二次加工痕のある剥片、同6区SI128・130・155・12A区SI077・29B区SI049・23C区SI2014・55B1区SI0038：軽石製品、同29A区SI007：打製石斧、同29A区SI010・29B区SI048・58B区SI021・60A区SI016：磨痕付礫、同29B区SI019・35A・C区SI068：楔形石器、23C区SI2015：台石・銅板、同34A～D区SI066：打製石鏃・銅鏃、同区SI142：打製石鏃・小銅環、同44区SI0017：軽石2・不明鉄製品、同35B・D区SI101：軽石・小銅環、同49A区SI029：磨製石鏃、同37区SI023：台石、同54A区SI044：石皿？、同区SI070：軽石製浮子・石皿、同6区SI149：打製石鏃、同58A区SI028：打製石鏃3、58A区SI039：軽石製浮子、同55B1区：SI0026：台石、同60A区SI035：管玉、同区SI050：管玉・軽石製品・小銅環、同8C区SI1094：不明鉄製品、同34A～D区SI038・SI040：鉄鏃？、同35B・D区SI078：刀子？、同52A区SI015・58A区SI043：不明鉄製品、同59B4区SI004：板状鉄斧、同55B1区SI001：不明鉄製品・銅釧、55B2区SI0018：鉄鏃、同8B区SI048・8C区SI1065・34A～D区SI050・44区SI0131・54A区SI049・55B1区SI0027・SI0034・SI0035：銅釧、同8C区SI1098・36B区SI11031・34A～D区SI088・49A区SI003・同区SI009・54A区SI056・58A区SI033・60A区SI048：小銅環、同44区SI0159：銅鏡片、同54A区SI023・同区SI085・57A・G1区・55B2区SI0035：銅環、同54A区SI057：銅鏃2、同57A・G1区SI002・57D3区SI023・58A区SI034、60A区SI006：銅鏃、同58A区SI030：短冊状銅製品、同55A3区SI023：板状銅製品、同34A～D区SI169・58B区SI034・55B2区SI0030：土製勾玉、同37区SI012：不明土製品・モモ果核、同54A区SI063：不明土製品（部分的な赤彩あり）、同6区SI148：小銅環？・焼米、同6区155号住居跡：焼米、同6区SI165・13区SI002・29B区SI052：編み物石、同8C区SI1106：不明石製品、同区SI1113：籠、同29A区SI016：種子、32B区SI016：オニギリ状炭化物、同54A区SI024：炭化豆（ドングリ種子？）206、同59B4区SI002：オニギリ状炭化物3、平塚市王子ノ台遺跡YK75・79A号住居址：ミニチュア、同YK51・85・87・141号住居址：

打製石斧、同YK149号住居址：打製石鏃、同YK23・69 A号住居址：軽石製品、同YK46号住居跡：板状鉄斧、同YK94号住居址：管玉、平塚市原口遺跡YH34号住居址：埴・銅釧、同YH37・39・42・46号住居址：埴、同YH17・25号住居址：台石、同YH24号住居址：土製勾玉、同YH22号住居址：編み物石12

なお、平塚市真田・北金目遺跡群では上記に記載した以外にもミニチュア土器や広口壺が出土した住居跡が多数存在しているが、紙面の関係から割愛する。

庄内併行期：平塚市真田・北金目遺跡群22区住居SI002・住居SI011：埴、同12 F区SI5031・34 A～D区SI170：広口壺、同23 B区SI1003・44区SI0136・44区SI0149：ミニチュア壺、同12 E区SI4003：軽石製品、同12 E区SI4004：軽石製品3、同12 F区SI5038：軽石製品・小銅環、同34 A～D区SI057：滑石勾玉、同34 A～D区SI115：軽石、同34 A～D区SI165：楔形石器、同36 B区SI1023：不明鉄製品、同44区SI0090・SI0146：銅釧

おわりに

今回は平塚市・大磯町内における竪穴住居の集成と分析を行った。今回をもって、計画していた県内の事例を集計・分析し終えたこととなる。次回はこれまでに得られたデータをもとに総括を行っていく予定である。

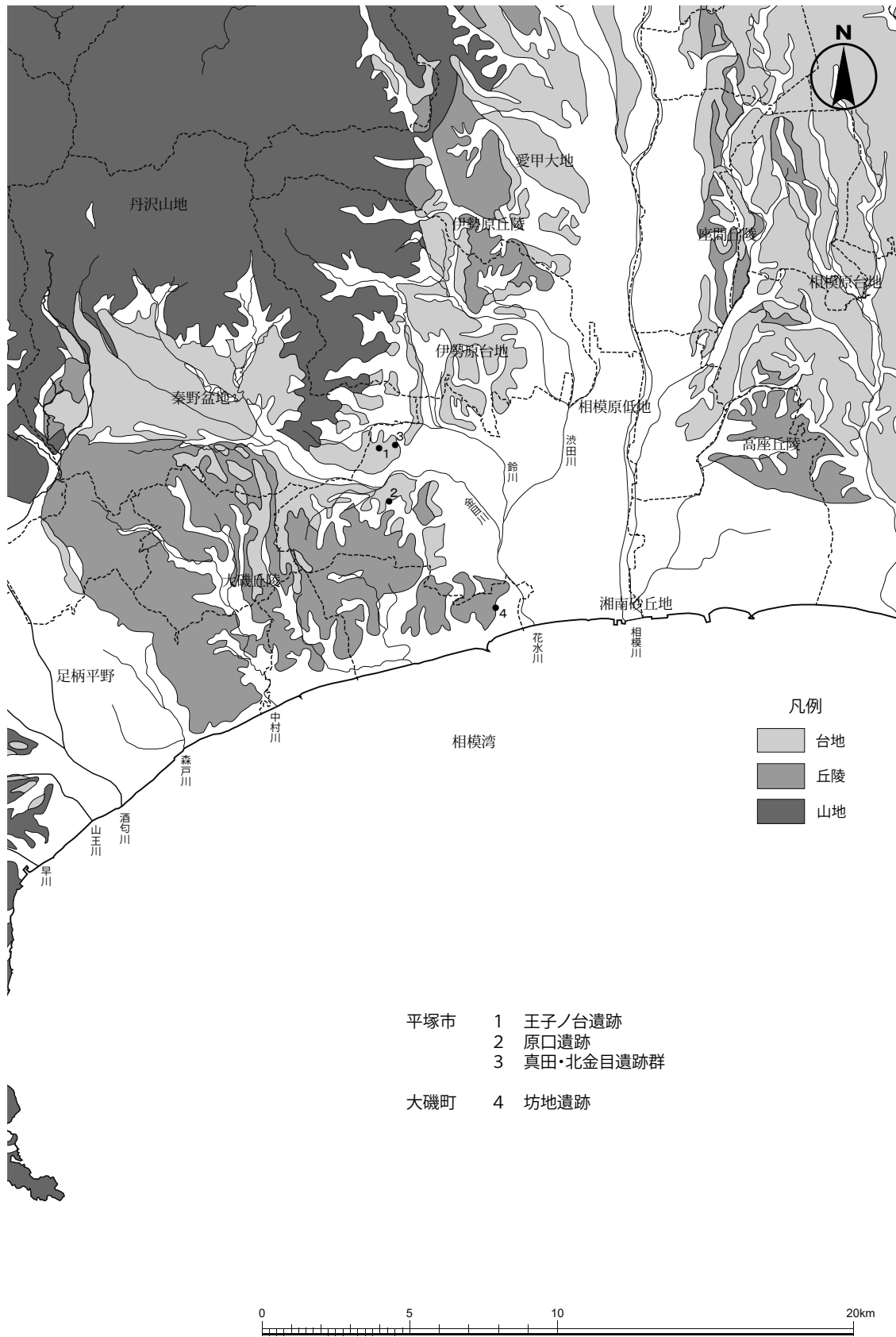
参考文献

- 弥生時代研究プロジェクトチーム 1994 「弥生時代竪穴住居の基礎的研究（1）」『神奈川の考古学の諸問題』 神奈川の考古学第4集 神奈川県立埋蔵文化財センター
- 弥生時代研究プロジェクトチーム 1995 「弥生時代竪穴住居の基礎的研究（2）」『神奈川の考古学の諸問題』 神奈川の考古学第5集 神奈川県立埋蔵文化財センター

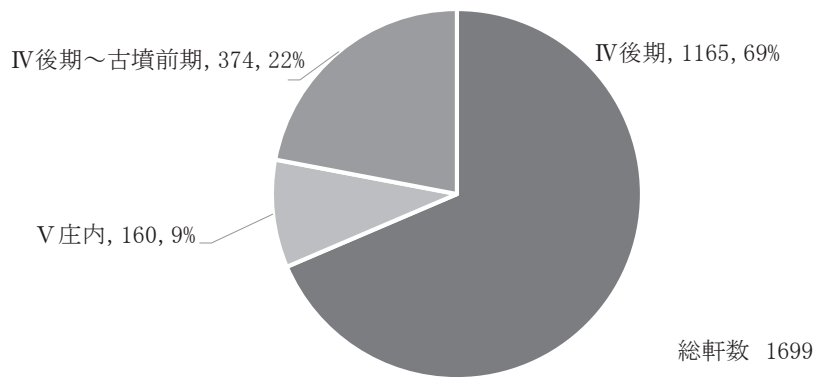
第1表 対象遺跡一覧表

No.	市町村名	遺跡名	軒数	刊行団体	刊行年	出典
1	平塚市	王子ノ台遺跡	86	東海大学校地内 遺跡調査団	2000	『王子ノ台遺跡Ⅲ』
2		原口遺跡	63	財団法人かながわ 考古学財団	2001	『原口遺跡Ⅱ』かながわ考古学財団調査報告104
3		真田・北金目遺跡群	7	平塚市真田・北金 目遺跡調査会	1999	『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』 1
			111		2001	『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』 2
			166		2003	『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』 3
			53		2002	『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』 4
			18		2006	『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』 5
			66		2008	『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』 6
			306		2010	『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』 7
			64		2011	『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』 8
			528		2012	『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』 9
			230		2013	『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』 10
4	大磯町	防地遺跡Ⅰ地点	1	坊地遺跡発掘調査団・大磯町教育委員会	1994	「坊地遺跡Ⅰ地点」『大磯町における発掘調査の記録Ⅲ』大磯町文化財調査報告書第41集

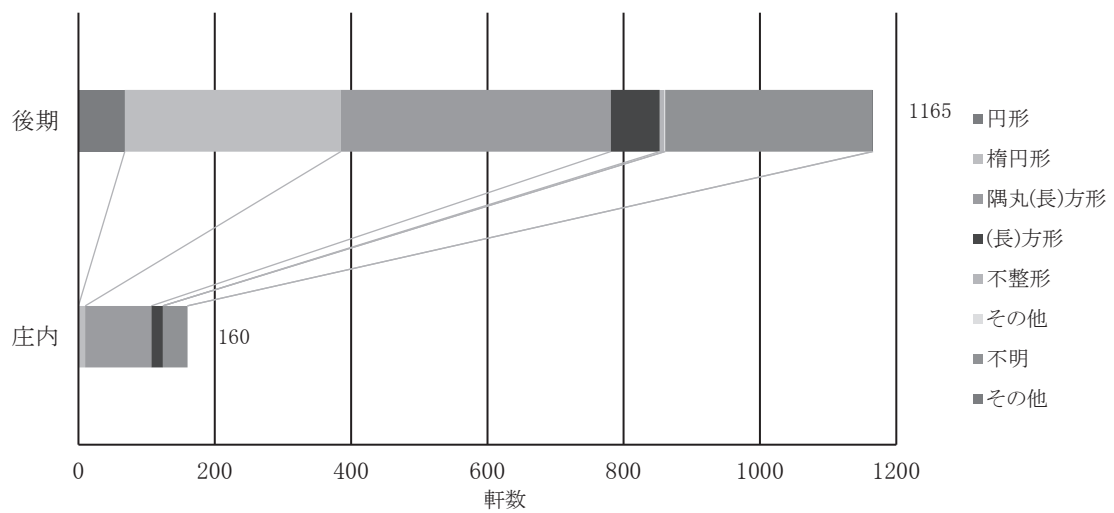
※各遺跡報告書における軒数については、検討結果に基づきデータ化したものをカウントした。なお、真田・北金目遺跡群においては、地区を細分して調査が行われており、同一住居が複数の報告書にわたって掲載されているものがある。これについては、報告書で詳述されている報告書に住居軒数をカウントし、それ以外の報告書における住居軒数からは除外した。



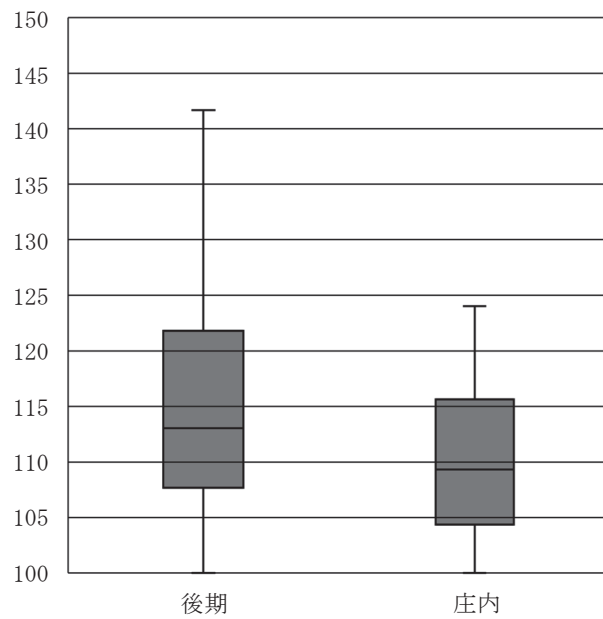
第1図 対象遺跡分布図



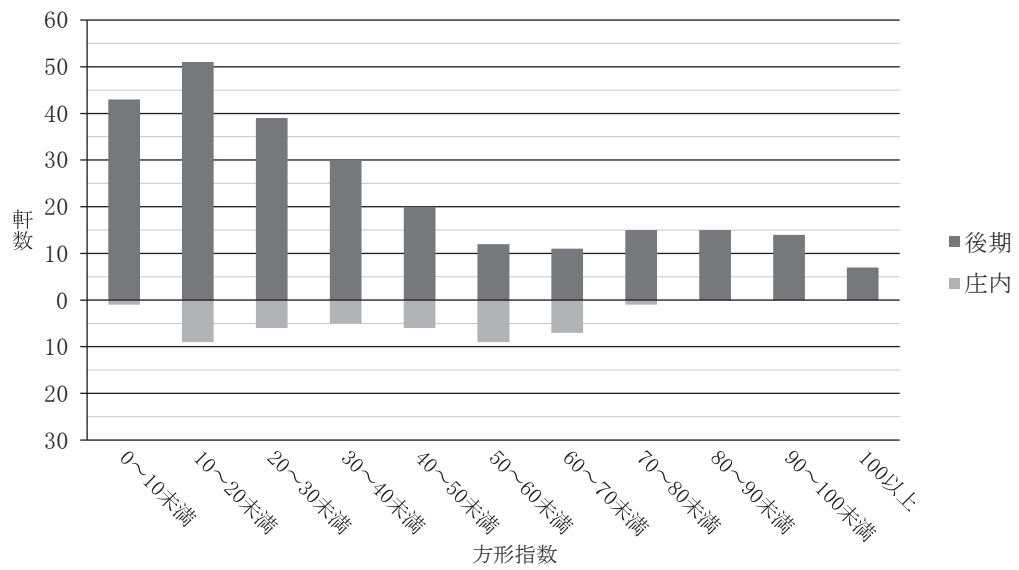
第2図 時期別住居軒数



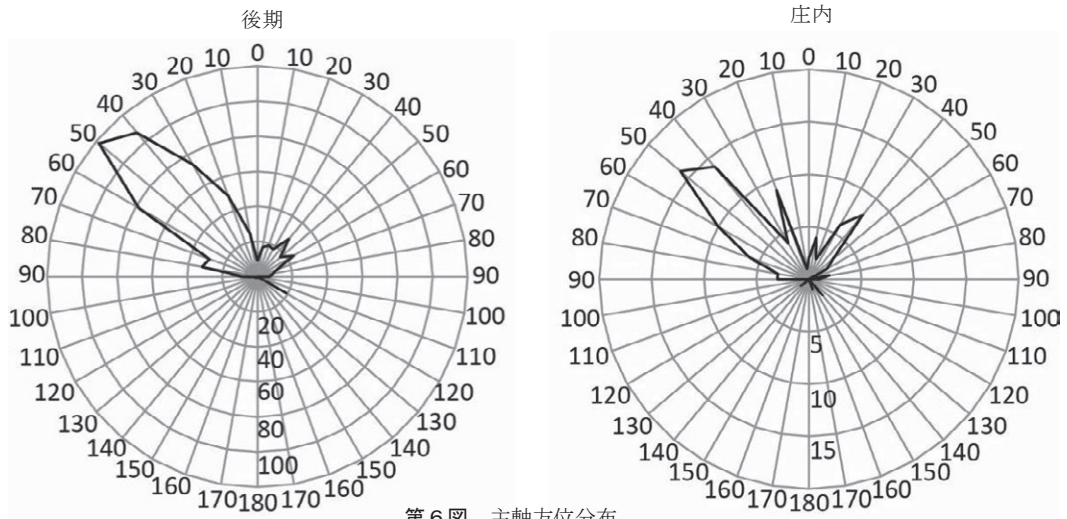
第3図 住居平面形態



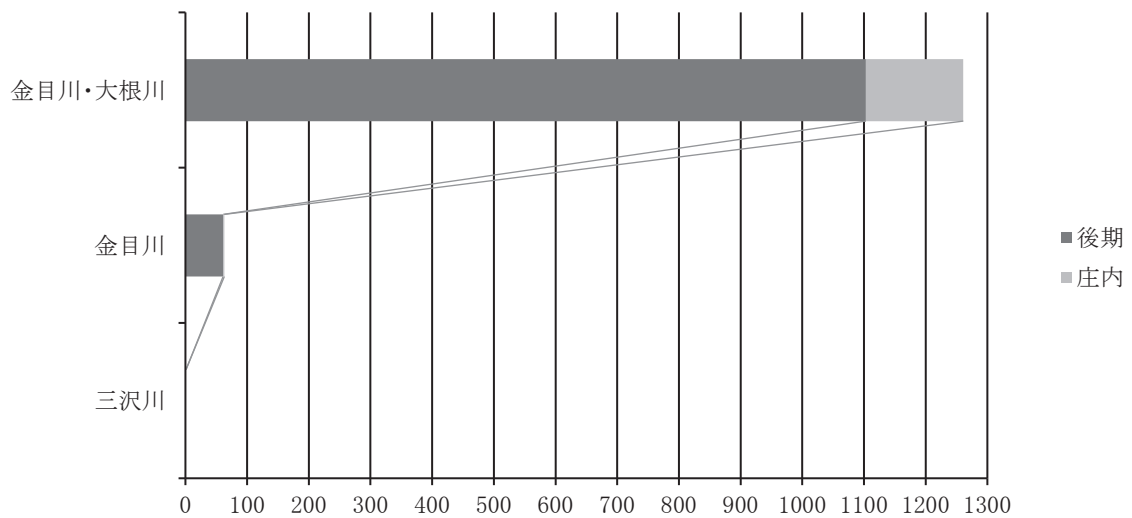
第4図 長短率



第5図 方形指数分布



第6図 主軸方位分布



第7図 水系別住居軒数

第2表 炉跡形態

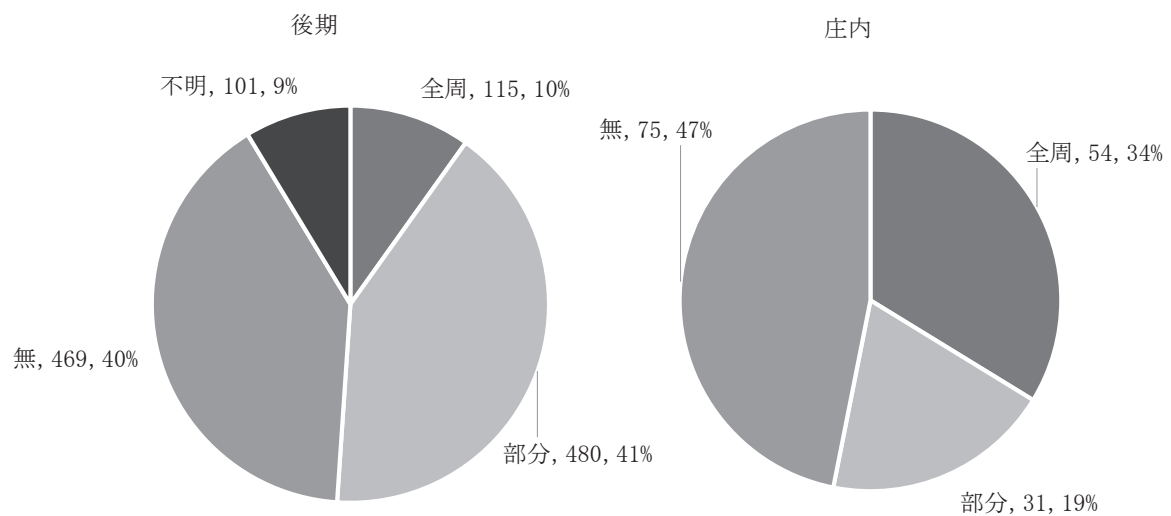
後期	種別	軒数	確認数/確認総数(%)	確認数/住居総軒数(%)
	地床炉	490	79.8	42.1
	枕石炉	108	17.6	9.3
	粘土板炉	10	1.6	0.9
	枕粘土炉	3	0.5	0.3
	土器片炉	3	0.5	0.3
	小計	614	100.0	52.7

庄内	種別	軒数	確認数/確認総数(%)	確認数/住居総軒数(%)
	地床炉	64	84.2	40.0
	枕石炉	11	14.5	6.9
	土器片炉	1	1.3	0.6
	小計	76	100.0	47.5

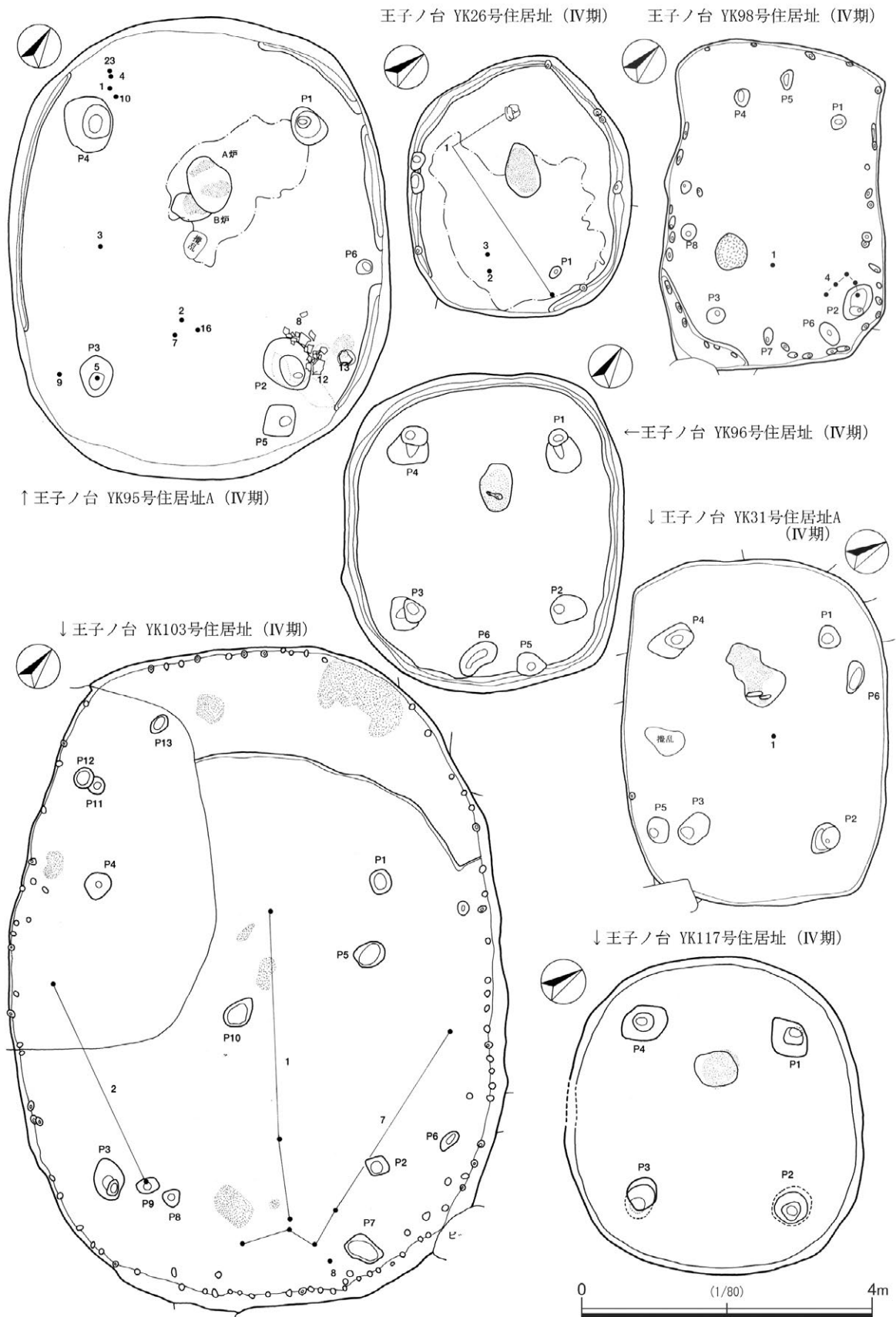
第3表 主柱穴本数

後期	主柱穴数	軒数	確認数/確認総数(%)	確認数/住居総軒数(%)
	0本	34	9.5	2.9
	1本	1	0.3	0.1
	2本	6	1.7	0.5
	3本	2	0.6	0.2
	4本	304	84.7	26.1
	5本	8	2.2	0.7
	6本	4	1.1	0.3
	小計	359	100.0	

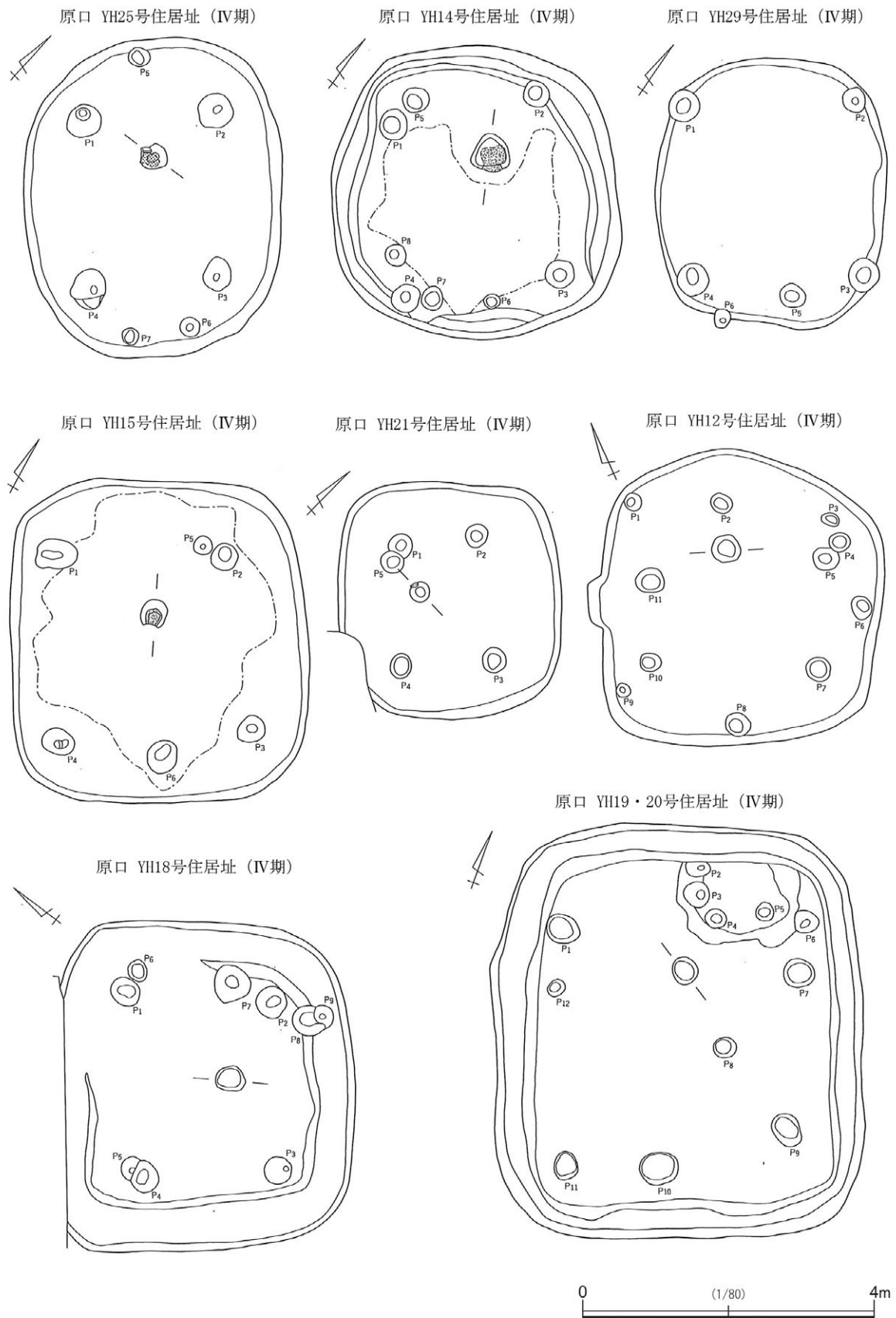
庄内	主柱穴数	軒数	確認数/確認総数(%)	確認数/住居総軒数(%)
	4本	81	98.8	50.6
	7本	1	1.2	0.6
	小計	82	100.0	



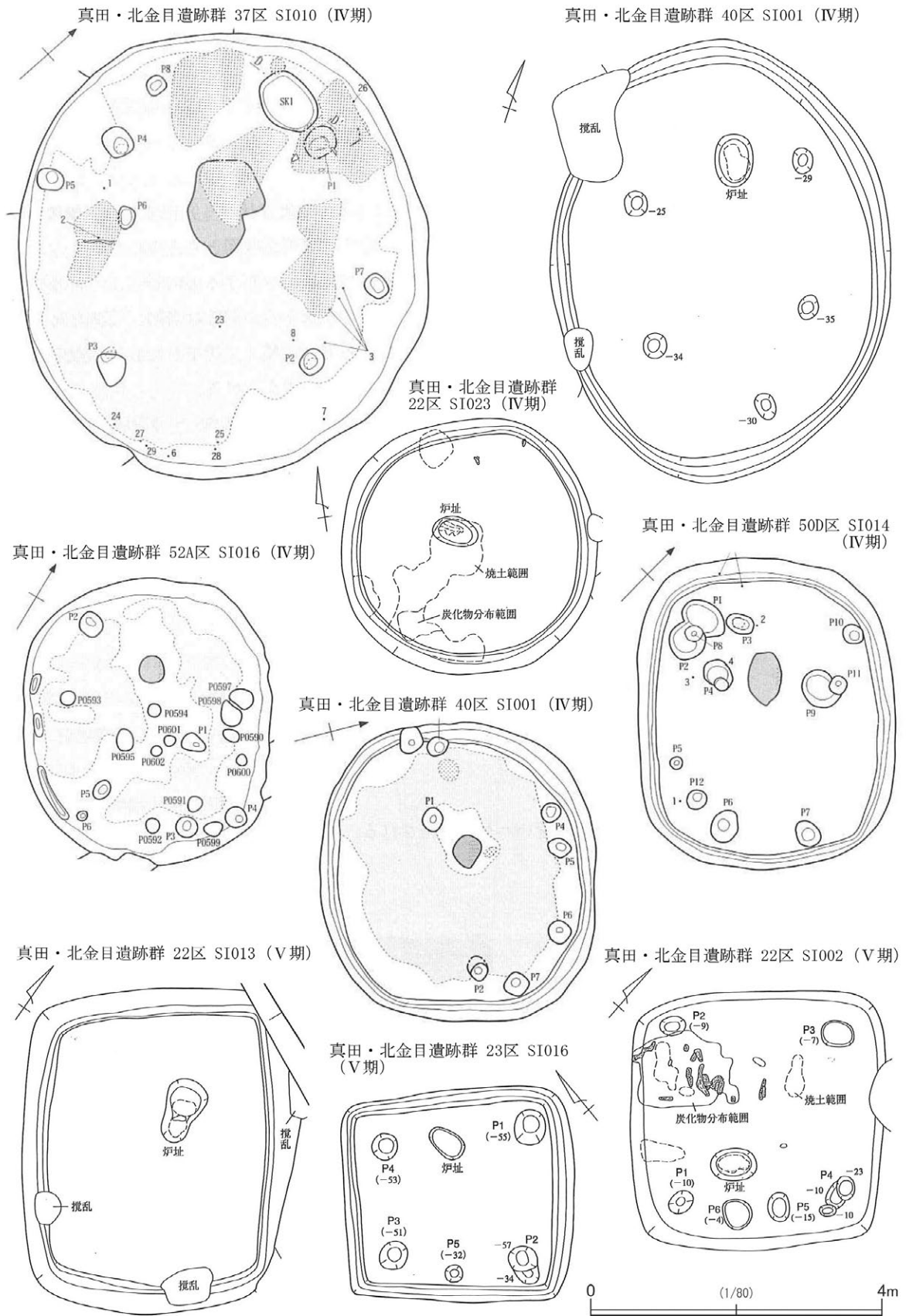
第8図 周溝の有無



第9図 竪穴住居平面図 (1)



第10図 竪穴住居平面図（2）



第11図 竪穴住居平面図 (3)